

## 部会員の障がい児に係る取組と課題の共有

令和4年度第2回障がい児部会で共有した、部会員（一部）が行っている障がい児に係る取組・課題を一覧にまとめた。

今後、当部会にて、ライフステージごとの支援や切れ目のない支援等を協議していくに当たり、既存の取組に対し、新たな気づきや多様な視点からの意見交換を引き出すため、部会員の取組や課題が継続的に共有されている状態を作りたい。

そこで、当部会開催時には、本一覧を手元に用意し、内容に追記・修正等があった際には更新するなど、継続的に活用していくこととする。

担当	取組内容	課題等
児童発達支援センター	<b>児童発達支援事業</b> 日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練	<ul style="list-style-type: none"><li>・より丁寧な支援を必要とする家庭の増加</li><li>・家族同士の親睦や情報交換の機会の減少</li><li>・待機児への対応</li><li>・平行通園先や他事業所との関係性</li><li>・個々の課題に合わせた支援の質の向上</li></ul>
	<b>保育所等訪問支援</b> 保育所などを訪問し、他の児童との集団生活への適応のための専門的な支援	<ul style="list-style-type: none"><li>・障がい児という括りでなく、全ての子供という視点での支援に関する考え方の相違（事業所と保育園等）</li><li>・平行通園児の増加による、学齢児の療育的支援に関する通常級やあいキッズとの連携不足</li><li>・事業所卒園後の関わり（通常級への進級後の不登校）</li></ul>
	<b>障害児相談支援事業</b> 障害児通所支援（児童発達支援・放課後等デイサービスなど）を利用する前に障害児支援利用計画を作成し（障害児支援利用援助）、通所支援開始後、一定期間ごとにモニタリングを行う（継続障害児支援利用援助）等の支援	<ul style="list-style-type: none"><li>・計画作成に当たっての適切な支援量の考え方</li><li>・待機者への対応</li><li>・計画相談から離れ、通常級に進級した方への対応</li><li>・他機関との連携不足</li></ul>
放課後等デイサービス事業所	<b>放課後等デイサービス事業</b> 一人ひとりの個別支援計画に基づいた支援（①自立支援と日常生活の充実のための活動 ②創作活動 ③地域交流の機会の提供 ④余暇の提供）	

保育サービス課	<b>要支援児保育事業</b> 心身等に障がいをもつ児童を、保育所において一般の保育の利用児童とともに行う集団保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要支援児の増加傾向による保育士の不足</li> <li>・専門相談員の不足</li> </ul>
	<b>居宅訪問型保育事業</b> 障がいや疾病により個別の医療的ケアが必要で、集団保育が著しく困難と認められるお子さんを、保護者の自宅において1対1で保育する事業	
地域教育力推進課	<b>支援員の加配</b> 特別な支援を保護者が希望する際、要件を満たすことで支援員を加配する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が就労等をしておらず、特別な支援等が必要な場合、加配がなく児童対応をすること</li> <li>・保護者の協力が必要となるケースの発生、対応の複雑化</li> <li>・有資格者の職員確保（数年の勤務経験や認定資格研修の受講）</li> <li>・特別な支援等を必要とする児童の重度化や多様化を背景とした支援の質の向上</li> </ul>
	<b>要支援児巡回指導</b> 専門知識や経験を有する者があいキッズを巡回指導することで、支援等が必要な児童の受入環境整備、あいキッズ受託法人職員の資質向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援等を必要とする児童の重度化や多様化を背景とした支援の質の向上</li> </ul>
	<b>要支援会議</b> 専門員による研修を年1～2回実施し、あいキッズ受託法人職員の要支援児対応力向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援等を必要とする児童の重度化や多様化を背景とした支援の質の向上</li> </ul>
指導室・学務課・地域教育力推進課	<b>医療的ケアが必要な児童・生徒等への支援</b> 区立小中学校等に看護師を配置し、必要な支援を行う	

※このほか、板橋区健康推進課が作成している「**子どもの発達支援ガイドブック**」も活用する。

※本一覧及び「子どもの発達支援ガイドブック」の共有について、当面は部会開催毎に活用していくが、部会の協議事項や部会員の継続任期の状況に合わせ、柔軟に取り扱うこととする。